



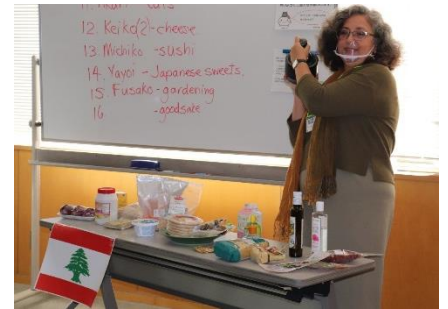
レバノン系アメリカ人の視点から見る レバノンの食と文化 おまけに、少し英語も勉強しましょう！

11月29日（日）に、イーグレひめじ4階セミナーC・D室で、国際交流ふれあい教室「レバノン系アメリカ人の視点から見るレバノンの食と文化 おまけに、少し英語も勉強しましょう！」を実施しました。講師はレバノンとヨーロッパにルーツがあり、アメリカ・フェニックス市出身で、現在は市内の小中学校でALTとして勤務されているリリアン・ハビッシュさんをお迎えしました。参加者は17名集まり、終始、熱心にリリアンさんの話に耳を傾けました。



今回は、初めての試みとして、英語で開催しました。司会進行から、講師のプレゼンテーション、参加者からの質問まで、2時間英語が飛び交うにぎやかなイベントになりました。また、今回は、言語サポーターとしてCIRのオクイールさんも一緒に参加してもらい、イベントを盛り上げてくれました。

プレゼンテーションでは、リリアンさんの自己紹介クイズから始まり、ダイナミックな家族の歴史、レバノンの紹介、アメリカのレバノン系アメリカ人についてや、地中海の食文化とレバノンの食文化の紹介など、幅広い内容でとても充実したものでした。プレゼンテーションは日本語訳を用意していたので、参加者のみなさんは訳と照らし合わせながら、興味津々に講師の話聞いていました。参加者の中には、相づちやリアクション、所々積極的に質問をする人もおり、参加者の熱心さを感じました。



今回は、講師のプレゼンテーションがメインでしたが、本来なら、国際交流ふれあい教室は講師の講演に加えて、料理作り等の体験を交えながら、講師の出身国や地域を紹介してもらいたいイベントです。新型コロナウイルスの状況が落ち着き、料理ができる状態まで戻れば、ぜひまたリリアンさんに講師をお願いしたいと思います。

